

Global Classrooms

グローバル・クラスルーム

報告書

第9回全日本高校模擬国連大会



2015年11月



グローバル・クラスルーム日本委員会

Japan Committee for Global Classrooms



ACCU 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

【共催】

国際連合大学

【後援】

外務省

文部科学省

公益財団法人日本国際連合協会

国際連合広報センター

【協賛】

株式会社内田洋行



内田洋行

学校法人河合塾

河合塾

株式会社公文教育研究会



株式会社講談社

講談社

学校法人駿河台学園

駿台予備学校

学校法人 高宮学園 代々木ゼミナール



株式会社エヌエフ回路設計ブロック



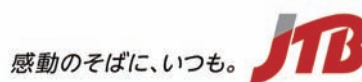
キックマン株式会社



TOEFL Junior® (GC&T)



株式会社ジェイティービー



損害保険ジャパン日本興亜株式会社
ちきゅうくらぶ



一般財団法人凸版印刷三幸会

TOPPAN

トヨタ自動車株式会社

TOYOTA

株式会社日能研

日能研

海外トップ大進学塾 Route H
(ベネッセコーポレーション)

Route H

株式会社三井住友銀行

三井住友銀行
SMBC

株式会社三菱東京 UFJ 銀行

三菱東京UFJ銀行
MUFG

株式会社ナガセ

東進ハイスクール

株式会社ニチレイ

ニチレイ

株式会社みずほ銀行

MIZUHO **みずほ銀行**

三菱商事株式会社

三菱商事

(五十音順)

【協力】

株式会社日本経済新聞社

株式会社読売新聞グループ本社

読売新聞

理想科学工業株式会社

RISO

日本航空株式会社

JAPAN AIRLINES
JAL

株式会社リクルートマーケティング
パートナーズ

RECRUIT

(五十音順)



全日本高校模擬国連大会は、留学促進キャンペーン
「トビタテ! 留学 JAPAN」の趣旨に賛同します

■ 目次

はじめに	3
グローバル・クラスルーム日本委員会	4
大会概要	5
大会日程	7
国連事務総長からのメッセージ	9
選考課題講評	10
会議報告	13
担当国一覧	23
企画報告	31
参加者の声	33
支援者・支援団体一覧	35
ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）からのメッセージ	37
グローバル・クラスルーム日本委員会（2015年12月現在）	38
おわりに	39
関連リンク	40





■ はじめに

この度、第9回全日本高校模擬国連大会の報告書を皆様にお届けできる運びとなりました。2015年11月14日-15日に開催した本大会は、多くの皆様に支えられ、盛会のうちに幕を閉じることができました。グローバル・クラスルーム日本委員会を代表して、参加者及びご支援、ご高配を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

グローバル・クラスルーム日本委員会は、国際社会に貢献できる人材をより早い時期から育成したいという理念を掲げ、日本における全国規模の高校模擬国連大会を開催しています。今年で9回目を迎える本大会は、全国各地より160名もの国際問題に関心のある意欲的な高校生に参加いただきました。大会終了後、「一生の思い出になった」「是非次回も参加したい」などの声が多数寄せられました。会議や基調講演を通じて、また大会中の様々な人との交流を通じて、参加者にとってこの大会が忘れられないものとなったならば、大会を企画運営してきた者の一人としてこれ以上の喜びはありません。

2日間の大会期間中、新しい活動に真剣に取り組む参加者の姿を見ることができました。ほとんどの参加者にとって模擬国連は初めての体験であったと思いますが、日本以外の国の立場から国際問題を考えるだけでも難しいところ、交渉を通して自国への支持を集めるという慣れないことを見事に行っていました。学業や部活動を始め、様々な活動を行う中で時間を作り、リサーチから政策立案に至るまでの様々な課題を行っていただいたことを大変嬉しく思う一方で、この経験が今後の皆様の糧となることを強く確信しております。過去にこの大会に参加された参加者が大会終了後に、そして高校卒業後にも交流を続けている姿を見るにつけ、この大会において参加者が得られたつながりがいかに大きいものであるかがうかがわれます。この大会に参加することで得られた経験やつながりを参加者が今後の人生で活かし、将来国際的な舞台で活躍されることをグローバル・クラスルーム日本委員会一同、大変楽しみにしております。

本報告書が、日本における模擬国連活動の更なる普及と発展の一助になることを願っております。今後ともグローバル・クラスルーム日本委員会の活動にご協力いただければ幸いです。

最後に改めまして、本大会に温かいご支援・ご協力をくださいましたすべての皆様に、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

グローバル・クラスルーム日本委員会
理事長 青柳 沙耶

■ グローバル・クラスルーム日本委員会

グローバル・クラスルームは、国連会議のシミュレーション(模擬国連)を通じて、現代の世界におけるさまざまな課題について学ぶための先進的な教育プログラムとして、公立中学校・高校を対象に、米国国連協会の提唱により始まりました。模擬国連に参加する学生は、国連加盟国の大使として各国大使との交渉や決議案の作成等を通して、世界が直面する課題の解決に向けた「国際協力」を実現していきます。

米国国連協会は、このグローバル・クラスルームを米国諸都市のみならず世界各地に普及させることで、国際理解教育と模擬国連の良さを多くの国の学校と共有するとともに、模擬国連コミュニティの裾野を広げようとしています。そこで2007年、グローバル・クラスルーム日本委員会が組織され、同年の第1回日本代表団の国際大会への派遣を皮切りに高校生の模擬国連活動が始まりました。第6回全日本大会からはユネスコ・アジア文化センターと共同で開催しています。第9回大会では、国際連合大学の共催となり、事業の拡大に努めています。



■ 大会概要

【大会名称】

第9回全日本高校模擬国連大会

(英語名：The 9th All Japan High School Model UN Conference)

【主催】

グローバル・クラスルーム日本委員会

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

【共催】

国際連合大学

【後援】

外務省

文部科学省

公益財団法人日本国際連合協会

国際連合広報センター

【協賛】

株式会社内田洋行

株式会社エヌエフ回路設計ブロック

学校法人河合塾

キックマン株式会社

株式会社公文教育研究会

TOEFL Junior® (GC&T)

株式会社講談社

株式会社ジェイティービー

学校法人駿河台学園

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

ちきゅうくらぶ

学校法人高宮学園代々木ゼミナール

一般財団法人凸版印刷三幸会

トヨタ自動車株式会社

株式会社ナガセ

株式会社日能研

株式会社ニチレイ

海外トップ大進学塾 Route H

(ベネッセコーポレーション)

株式会社みずほ銀行

株式会社三井住友銀行

三菱商事株式会社

株式会社三菱東京 UFJ 銀行

(五十音順)

【協力】

株式会社日本経済新聞社

日本航空株式会社

株式会社読売新聞グループ本社

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

理想科学工業株式会社

(五十音順)

【開催期間】

2015年11月14日(土)・15日(日)

【募集期間】

2015年7月1日(水)～9月7日(月)

【応募数】

136校 203チーム

【設定会議】

国連総会経済・財政委員会(第二委員会)

United Nations General Assembly Economic and Financial Committee (2nd Committee)

国際移住と開発 International Migration and Development

【使用言語】

(公式/非公式/文書) 英/日/英

【会場】

国際連合大学(3階 ウ・タント会議場、5階 エリザベス・ローズ会議場)

150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70

【会議参加数】

64校 80チーム

【参加費】

無料

【優秀者特典】

2016年5月に米国ニューヨークで開催される高校模擬国連国際大会への日本代表団としての参加資格

(航空費・宿泊費全額支給)

■ 大会日程

今年も昨年同様二つの議場（会議 A、会議 B）での開催となりました。

<会議 A 参加者のスケジュール>

11月14日（土）		11月15日（日）	
9：25	集合	9：25	集合
9：30	受付開始	9：30	受付開始
10：00	開会式 (3F ウ・タント)	9：50	2nd Session (5F エリザベス・ローズ)
11：20	会議細則の確認 (3F ウ・タント)		
11：35	昼食		
12：20	1st Session (3F ウ・タント)		
13：05		昼食	
13：45		3rd Session (5F エリザベス・ローズ)	
15：30		Review	
15：45		3F ウ・タントへ移動	
16：00		閉会式及び写真撮影 (3F ウ・タント)	
17：15	解散	17：00	解散

<会議 B 参加者のスケジュール>

11月14日(土)		11月15日(日)	
9:40	集合	9:40	集合
9:45	受付開始	9:45	受付開始
10:00	開会式 (3F ウ・タント)	10:05	2nd Session (3F ウ・タント)
11:20	昼食		
12:05	会議細則の確認 (5F エリザベス・ローズ)		
12:20	1st Session (5F エリザベス・ローズ)		
13:20		昼食	
14:00		3rd Session (3F ウ・タント)	
15:30		Review	
15:45		休憩	
16:00		閉会式及び写真撮影 (3F ウ・タント)	
17:30	解散	17:00	解散



THE SECRETARY-GENERAL
MESSAGE TO THE GLOBAL CLASSROOMS: JAPAN
MODEL UNITED NATIONS CONFERENCE
November 14-15, 2015

You gather for this Model United Nations at a time of profound turmoil, transition and transformation. Insecurity, inequality and intolerance are spreading. Governments are wasting vast and precious funds on deadly weapons while reducing investments in people. Too many people in power seem to be willfully blind to the threat of climate change. Citizens yearn for jobs and the prospect of a decent life, but all too often they get divisiveness and delay instead.

There have been significant steps forward. Extreme poverty has been cut in half since the year 2000. Democratic transitions are under way in Arab world, Myanmar and elsewhere. Africa's economic growth has become the fastest in the world. Latin America and Asia continue to make important advances. Still, we must raise our levels of ambition. I have set out an action agenda that focuses on five imperatives: sustainable development; preventing conflicts, damage from disasters and human rights abuses; building a more secure world; supporting countries in transitions; and empowering the world's women and young people.

You are part of the largest generation of young people our world has ever known. Yet opportunities for youth are falling short. Youth unemployment rates are at record levels. Many are struck in low-wage, dead-end work, despite having college degrees. We must work together to help young people make the most of their energies, ideas and leadership potential.

By participating in this Model United Nations, you will sharpen your negotiating skills and gain insights into what it takes to achieve consensus and progress. Armed with these assets, you can mobilize and engage on the major issues of our day. From raising awareness through social media to joining forces in other ways with students from around the world, you can make your voices heard and drive political and social change.

This is an era of great uncertainty, but also one of profound opportunity. No single leader, country or institution can do everything. But each of us, in our own way, can do something. Together, as partners, we can meet today's tests and seize the opportunities of an era of dramatic change. I wish you great success at this Model UN, and I hope the experience will inspire you to support our global work for peace, justice, human rights and sustainable development for years to come.

■ 選考課題講評

第九回全日本高校模擬国連大会 選考統括 久保田侑

本年度は模擬国連に精通した10名の選考員のもとで、選考課題の採点を行いました。選考に当たっては、参加校名・氏名等をすべて伏せたうえで審査を行いました。

【選考課題】

2015年に生きる我々はかつてないほど世界と結びついており、その結びつきは、国家間の政治・経済的な問題から個人にまで幅広く及んでいます。そして、さまざまな国や社会の文化と接することが可能になり、異文化のみならず、自分の文化についても意識する機会が増えてきているのではないのでしょうか。グローバルに見ると、中東における過激派組織ISILの拡大や欧州における極右勢力の台頭が近年ニュースになっています。身近な話をすれば、日本政府が観光立国を目指す政策をとった結果、外国人観光客が年々増加してきており、街中や観光地で見かける機会も多くなっています。

さて、異なる文化を背景に持つ人々との接触が増えてくるなかで、異文化について考え、それを理解する重要性がますます高まってきていると考えられます。そのような問題意識のもとで、異文化理解に関する以下の問いに答えなさい。

課題図書：青木保『異文化理解』（岩波新書(740)、2001年）

<問1（英語課題）>

課題図書のpp.20-23では身近であろうと異文化体験ができると述べられています。あなたと「異文化」のかかわりについて以下の問題に答えなさい。あなたが「異文化」だと感じる（感じた）ものや出来事について説明し、「異文化」だと感じた理由、そして、あなたがどのようにその「異文化」と関わっているかについて述べなさい。（400 words 以内）

<問2（日本語課題）>

課題図書のI・1「文化は重い」（pp.2-23）の末尾（p.23）では、「異文化理解を改めて問題として取り上げ、そのさまざまなあり方を見て、積極的に異文化を意識し発見して理解しよう」と結論付けられています。課題図書のI・1を読んで、なぜ「異文化理解」が重要なのかについて、筆者自身の視点で要約しなさい。（500字以内）

<問3（日本語課題）>

課題図書のIV・1「文化の翻訳」（pp.138-158）では「異文化理解」のために、コミュニケーションとして異文化の関係をとらえ直し、言語的なコミュニケーションと同時に非言語的なコミュニケーションを重視する必要があると述べられています。課題図書のIV・1を読んで、非言語

的なコミュニケーションを理解する際に何が重要なのか、筆者の考えを述べなさい。なお、「コミュニケーションの三段階」と「遅い情報」という用語を自分の言葉で説明しつつ回答しなさい。(500字以内)

<問4 (日本語課題)>

「異文化理解」はただ頭で理解するだけでなく、実際に異なる文化を背景に持つ人々との交流を通じて実践することが欠かせません。以下の<資料1>では、文化交流で重点を置くべき分野に関する、内閣府の世論調査の結果が図示されています。あなたが政府の文化交流政策に携わる立場にいると仮定して、文化交流を進めるうえで一番重要だと考える分野を資料1にある選択肢の中から一つ選びなさい。そして、具体的な例をあげつつ、なぜその分野が一番重要なのかを示す理由を述べなさい。(1200字以内)

資料1

内閣府大臣官房政府広報室 「平成26年度外交に関する世論調査 文化交流 (1) 文化交流で重点を置くべき分野」(<http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-gaiko/zh/z31.html>)

【講評】

<問1>

評価に当たっては、「設問の要求にきちんと答えられた上で、論の展開が明確でわかりやすいか」、「本大会を見据えた際に、参加するにふさわしい英語力を備えているか」という点を重視しました。

自分の異文化交流の体験に基づいてわかりやすく論じた答案が多く、日常生活であろうと異文化体験が可能だという筆者の主張が改めて裏付けられたように見受けられました。一方、文化の違いというより、価値観や生活習慣の違いの紹介にとどまっている答案も一部見られました。

<問2>

評価に当たっては、本文中の言葉で筆者が述べている要因や主張をまとめられているか、「必要な要素を押さえた上で、文章全体を論理的にまとめられているか」という点を重視しました。文章自体は難解ではなかったと思われませんが、本文中では具体例も時折用いられており、字数制限の中でまとめる際に一定の差がつかしました。文章の論理構成をきちんと汲み取った上で、筆者の主張を過不足なく、的確にまとめられていた答案は一部に限られました。

<問3>

評価に当たっては、「非言語的コミュニケーション」や「遅い情報」などの初見の概念に関して、本文をよく理解し、答案で説明できているか」という点を重視しました。

この問題では、模擬国連に限らず様々な場面で求められる、意見を他者にわかりやすく伝える能力を問いました。「コミュニケーションの三段階」や「遅い情報」などの抽象度の高い用語について、単に本文中での使われ方を抜き出すのではなく、その内容を正しく理解した上で説明できたかという点で明暗が分かれたように見受けられました。

<問4>

評価に当たっては、「ある選択肢を選んだ理由を、具体的かつ論理的に述べているか」、「選んだ文化交流政策に関する主張を通じて、どのような異文化理解ができるのかが具体的かつ論理的に書けているか」という点を重視しました。

具体的な事例や数値を取り上げながら多角的に考察する答案や、自らの文化交流体験に基づき、選んだ政策の長所を指摘する答案など、高校生らしい新鮮さと同時に、説得力が感じられる答案も多く見受けられました。「なぜ重要なのか」という問いに対して、異文化理解の手段としてその政策による効果や利益などをわかりやすく説明しているものは、中でも具体的かつ論理的であると判断しました。

【出題の意図】

本年度の選考課題では「異文化理解」というテーマを一貫して設定しました。問題文冒頭で述べたように、日本に住む私たちにとって異文化理解はさらに密接な課題となりつつあります。出版されたのは15年ほど前ですが、異文化理解の本質を見極め、われわれに重要な示唆を与える青木保氏の著作『異文化理解』を用いて選考課題を設定しました。

4つの設問では、様々な立場の視点から異文化理解について考えていただきました。それぞれ、個人の立場（問1）、著者の立場（問2、3）、国・政府の立場（問4）から異文化理解を考えてみようという取り組みです。この選考課題をきっかけに、模擬国連の場を超えて、異文化と接触したときに、ただ文化の違いを認識するだけでなく、さらに奥深い文化を理解できるようになるきっかけとなれば幸いです。

■ 会議報告

グローバル・クラスルーム日本委員会 研究主任
第九回全日本高校模擬国連大会 会議監督 大内朋哉

【議題設定】

「移民」と聞いてみなさんはどんな人たちを思い浮かべるでしょう。豊かな国で低賃金労働に励む人々を想像する人も多いのではないのでしょうか。しかし、実はそうした想像以上に、彼らは様々な仕事をしています。肉体労働に従事する人もいれば、医療や看護に携わる人や、IT関係の仕事の第一線に立つ人もいます。みなさんの中にも、将来外国へ行き、「移民」として活躍する人がいるかもしれません。日本でも、少子高齢化対策として移民の受け入れ数を増やすか検討されるなど、国際移住は身近になりつつあります。

移民の数は今や世界全体で2億を超えています。グローバル化が進み、人の移動がより容易かつ活発になった現代において、この数は今後も増え続けると予想されます。日本であれ海外であれ、みなさんが様々な国から来た人と共に働く機会も多くなることでしょう。しかし、国際移住は各国に利益をもたらすだけでなく、様々な問題を世界各地に生じさせています。

移民受入国では、足りない労働力を補う人材として、移民がその国の経済成長に大きく貢献しています。しかし、移民はそうした国では貧しい暮らしを送っていることも多く、強制労働や人身売買の被害にあう状況が生まれています。また、文化の違いから移民に差別や危害が加えられることも多く、世界的な問題になっています。一方、移民送出国では、移民が海外で稼いだお金を本国へ送金することで、その国の収入が支えられています。しかし、自国の発展を支える優秀な人材が海外へ出ていってしまうために、自国の経済成長が困難になるという側面もあります。

私たちの生きている現代がグローバル化の中にあることは疑いようがありません。しかし私たちは普段、グローバル化が引き起こす事柄について、良い面のみ、あるいは悪い面のみばかりに注目してしまいがちです。問題の本質はもっと複雑で、相互に絡み合っています。国際移住のメリットを維持しつつ、移民をとりまく問題に対処するために、各国は何ができるでしょうか。

国際移住に対する考え方は、国によって様々です。参加者は担当国の代表として会議に参加し、その国の未来のために解決策を考えることになります。それぞれの立場から国際移住について考えることで、思わぬ気づきを得られるでしょう。それは、みなさんが将来働くことになる日本、そして世界を考える上で、大きなヒントになるはずです。問題の本質を捉え、多様なアイデアが生み出されることを期待し、この議題を設定しました。

【会議経過】

本会議では、「国際移住と開発」という議題のもとで、①頭脳流出、②非正規移民、③移民が直面している困難への対応という3つの論点が設定され、国際移住のプラスの影響を最大にし、マイナスの影響を最小にすることを通して、持続可能な開発を達成するための議論が行われました。

会議の開催に先立ち、「国家間で対立することも予想される複数の論点を、限られた時間内で十分に議論しなければならない」という問題意識のもと、会議冒頭に議論の進め方について議場内で話し合い、決定することが議長より提案されました。多くの大使が同じ問題意識を持ち、会議冒頭では着席討議（MC: Moderated Caucus）で議論の進め方が話し合われました。

<会議 A>

会議 A では、地域ごとに話し合う進め方や、各論点を順番に扱う進め方、議題に対する立場が同じ国同士で話し合う進め方など様々な意見が出されました。最終的には、「地域ごとに集まる進め方を基本とするが、適宜立場を同じくする国同士でも集まる」という折衷案が議長より提案され、会議 A の議論の進め方として決定しました。その後、地域ごとのグループを主体に非着席討議（UC: Unmoderated Caucus）で議論が行われ、1日目終了時に作業文書（WP: Working Paper）が7本提出されました。

2日目は、1日目の WP を基本として、3本の決議案（DR: Draft Resolution）が提出されました。その後の修正作業では、各グループがコンセンサス採択を視野に入れ決議案の統合を目指しましたが実現はせず、それぞれの DR の修正案3本が提出されました。3本全てが投票した国の中で過半数の賛成を得て可決されましたが、どれも一定数の反対国があり、コンセンサスでの採択には至りませんでした。

<会議 B>

議場 B では議論の進め方について論点ごと、地域ごと、立場ごとなど様々な提案がなされ意見が分かれました。投票の結果、論点や地域を超えた、立場を同じくする国同士で議論を進めることが決まりました。その後の UC では立場の近い国が集まってグループが形成され、各グループ内で WP の作成が進められました。1日目終了時には複数の論点を含むものや、頭脳流出の論点に特化したものなど計6本の WP が提出されました。

2日目の冒頭には、WP 間の文言に矛盾があったことが議長から指摘されました。その後の各国大使の交渉を通して矛盾は解消され、DR は4本提出されました。修正案へ向けた作業では各文言の趣旨について再確認がなされ、最終的に4本の修正案が投票にかけられました。投票はすべて点呼投票によって行われ、DR.4/rev.1 に棄権が1票あったことを除いて、その他3本の修正案には全ての国が賛成票を投じて採択されました。

【決議要旨】

<会議 A>

会議 A で採択された 3 つの決議は、どれも 3 つの論点を包括的に扱っているものでした。また、既存の国際的枠組を利用したもの、全く新しい枠組のものがどちらも多く含まれました。一方で、同様の内容の文言が複数の決議で見られるなど、決議間での調整は十分に行われなかった印象を受けました。

決議 1 頭脳循環促進のために先進国に期限付きのビザの発行を求めることなどが含まれました。また、移民の権利保護に関する国際条約の未批准国に、条約に批准していない理由を説明させる機会を設ける文言が特徴的でした。

決議 2 前文で移住する自由を強調した上で、適正な労働条件を守る企業へ移民を紹介する基金の設立などが含まれています。また、社会保障に関する条約に低技能移民の技術訓練の条項を追加するよう要請する内容も見られました。

決議 3 条文の数が多く内容の重複も見られたものの、非正規移民の発生原因の 1 つである紛争の平和的解決を求める文言など、多様な内容が含まれました。移民の社会統合についても、国際機関と協力していくことが述べられました。

<会議 B>

会議 B で提出された 4 つの決議案は立場を同じくする国ごとに作成されたため、それぞれ 1 つ、あるいは 2 つの論点について特徴的な内容が含まれていました。投票結果からも各国でコンセンサスに向けた交渉が進められていたことがうかがえましたが、人権に関する内容が多く、開発という観点からの政策は比較的少ないように見受けられました。

決議 1 移民の人権の保護について様々な切り口から政策が述べられました。特に移民女性の人権の保護は他の決議には見られず特徴的でした。また、送出国と受入国による基金を通して移民を経済的に支援する政策なども見受けられました。

決議 2 移民の数を減らすためにどのような方策を取るべきかについて述べられました。移民のデータ管理や、法規制、国境警備の強化などに受入国、送出国が共同で取り組むことを各国に求める文言が含まれています。

決議 3 移民を経済発展のために欠かせないものだとしたうえで、主に移民の保護に関する政策や移民の権利を認め、労働条件の改善を各国に求める政策が見受けられました。

決議 4 頭脳循環が効果的に行われるために地域・国連それぞれに移民の帰還を支援する基金の設立が各国に求められました。また送出国、受入国に対しそれぞれ移民の人権状況を確認する会議が開かれることが要請されました。

【投票結果】

提出された決議案に対する採決は、全て Roll Call（1国ずつ賛成・反対・棄権のいずれかを表明する、点呼投票）により行われました。投票結果は会議 A と会議 B とで特徴の分かれるものとなりました。表中のアルファベットは、Y：賛成、N：反対、A：棄権を表します。

<会議 A >

	決議番号	決議1	決議2	決議3
1	Algeria	N	Y	N
2	Angola	Y	Y	N
3	Argentina	Y	A	N
4	Australia	Y	Y	A
5	Bahamas	N	Y	N
6	Brazil	Y	Y	Y
7	Canada	N	Y	Y
8	China	Y	Y	Y
9	Ecuador	Y	A	N
10	Fiji	A	Y	Y
11	France	N	N	Y
12	Gambia	Y	A	N
13	Germany	Y	N	A
14	Greece	Y	N	Y
15	Haiti	Y	N	Y
16	India	Y	Y	Y
17	Indonesia	N	Y	N
18	Iran	Y	A	Y
19	Italy	N	Y	Y
20	Japan	Y	N	Y
21	Mexico	Y	Y	N
22	Mazambique	Y	Y	Y
23	Nepal	Y	Y	Y
24	Nigeria	Y	N	Y

	決議番号	決議1	決議2	決議3
25	Philippines	N	Y	Y
26	Portugal	N	Y	N
27	Qatar	N	Y	Y
28	Romania	N	A	Y
29	Russian Federation	N	Y	Y
30	Singapore	Y	N	A
31	South Africa	Y	Y	A
32	Sudan	Y	Y	Y
33	Sweden	A	Y	N
34	Tajikistan	Y	Y	A
35	Thailand	N	Y	Y
36	Turkey	N	Y	A
37	United Arab Emirates	Y	A	Y
38	United Kingdom	N	Y	Y
39	United States	Y	Y	A
40	Zimbabwe	Y	Y	A

	決議番号	決議1	決議2	決議3	
総計 国数	賛成	Y	24	27	22
	反対	N	14	7	10
	棄権	A	2	6	8
	計		40	40	40
結果			可決	可決	可決

<会議 B >

	決議番号	決議1	決議2	決議3	決議4
1	Algeria	Y	Y	Y	Y
2	Angola	Y	Y	Y	Y
3	Argentina	Y	Y	Y	Y
4	Australia	Y	Y	Y	Y
5	Bahamas	Y	Y	Y	Y
6	Brazil	Y	Y	Y	Y
7	Canada	Y	Y	Y	Y
8	China	Y	Y	Y	Y
9	Ecuador	Y	Y	Y	Y
10	Fiji	Y	Y	Y	Y
11	France	Y	Y	Y	A
12	Gambia	Y	Y	Y	Y
13	Germany	Y	Y	Y	Y
14	Greece	Y	Y	Y	Y
15	Haiti	Y	Y	Y	Y
16	India	Y	Y	Y	Y
17	Indonesia	Y	Y	Y	Y
18	Iran	Y	Y	Y	Y
19	Italy	Y	Y	Y	Y
20	Japan	Y	Y	Y	Y
21	Mexico	Y	Y	Y	Y
22	Mazambique	Y	Y	Y	Y
23	Nepal	Y	Y	Y	Y
24	Nigeria	Y	Y	Y	Y

	決議番号	決議1	決議2	決議3	決議4
25	Philippines	Y	Y	Y	Y
26	Portugal	Y	Y	Y	Y
27	Qatar	Y	Y	Y	Y
28	Romania	Y	Y	Y	Y
29	Russian Federation	Y	Y	Y	Y
30	Singapore	Y	Y	Y	Y
31	South Africa	Y	Y	Y	Y
32	Sudan	Y	Y	Y	Y
33	Sweden	Y	Y	Y	Y
34	Tajikistan	Y	Y	Y	Y
35	Thailand	Y	Y	Y	Y
36	Turkey	Y	Y	Y	Y
37	United Arab Emirates	Y	Y	Y	Y
38	United Kingdom	Y	Y	Y	Y
39	United States	Y	Y	Y	Y
40	Zimbabwe	Y	Y	Y	Y

	決議番号	決議1	決議2	決議3	決議4	
総計 国数	賛成	Y	40	40	40	39
	反対	N	0	0	0	0
	棄権	A	0	0	0	1
	計		40	40	40	40
結果			可決	可決	可決	可決

決議 (例)

今会議では 2 つの議場で計 6 本の決議が採択されました。紙面上の都合により、見本として会議 B の決議 1 のみを掲載致します。なお全ての決議は、当委員会ウェブサイトにて公開する予定です。また、掲載にあたり書式を一部変更している箇所があります。

Model United Nations

MA/70/C.2/RES.1



General Assembly

Distr.: Limited
15 November 2015

Original : English

Seventieth Session

Second Committee

Agenda item: **International Migration and Development**

Sponsor: Indonesia, Mexico, Mozambique, Nepal, Philippines, Qatar, Singapore, Tajikistan, Thailand and United Arab Emirates

The General Assembly,

Deeply conscious about the fact that migrant workers in countries of destination are vulnerable and susceptible to difficulties such as trafficking,

Recognizing that women represent almost half of all international migrants, and that women migrant workers are important contributors to social and economic development in countries of origin and destination, whose labor hold value,

Reaffirming the shared responsibility of the countries of origin and destination to effectively promote and protect the human rights and fundamental freedoms of all migrants, especially those of women and children, regardless of their migration status, in conformity with the Universal Declaration of Human Rights,

Referring to the fact that the cooperation between countries of origin and of destination are inadequate,

Believing that approaching issues that come along with international migration step by step will help nations reach amicable resolutions,

Emphasizing the United Nations convention on the Protection of the Rights of All Migrant Workers and Members of Their Families, which claims the significance of the protection of the rights of migrants,

Recognizing that migrants, especially irregular migrants, are employed in more unfavorable situations than nationals in countries of destination,

Noting with deep concern that the security and the social rights for migrants especially irregular migrants, are not protected,

Deeply concerned that migrants become the target of massacre and the persecution in countries of destination, due to the fact that their nationality is different,

Fully acknowledging that international migration has contributed greatly to development in both countries of origin and destination,

Noting that irregular immigration is increasing due to the strict requirements during the acceptance of migrants,

Concerned about the fact that countries of destination face social disorder when irregular migrants increase,

Convinced of the need to increase the number of acceptances of regular migrants, while easing the burden on countries of destination,

Taking note that many migrants remain after their predetermined employment period and become irregular migrants because they cannot find jobs in their own country,

Recognizing that the enforcement of strict border defenses hinders economic development from the flow of migrant workers, and could also cause the increase of irregular migration,

Understanding that regularization of irregular migrants have not only demerits but also merits,

1. *Encourages* countries of destination to take measures for the promotion of the repatriates of women-migrants who are victims of human trafficking, such as by allowing the countries of origin to deploy observers to the country of destination in order for countries of origin to fully understand the condition that women migrants work under and to take adequate measures of their women migrants;

2. *Recognizes* the need to address the special situation and vulnerability of women migrants, *inter alia*, incorporating a gender perspective into policies and strengthening national laws, institutions and programs to combat gender-based violence, including trafficking in persons and discrimination against them;

-
3. *Calls upon* Member States to cooperate on terms agreed upon by the countries of origin, with a view to promoting adequate economic conditions for resettlement of women migrants and to facilitating their reintegration in the State of origin;
 4. *Advises* the countries of origin and the countries of destination that they establish institutions and organizations, supported by Non-Governmental-Organizations and the United Nations, that provide migrants with language education and information on their rights and protection;
 5. *Requests* Member States to hold conferences regularly with the representatives of the countries of origin, destination, and the organizations of migration, which are asked to be funded by the International Organization for Migration with the cooperation of Member States, in order to discuss the progress each nation has made in resolving issues;
 6. *Stresses* the importance of the cooperation between the countries of origin and destination;
 7. *Requests* Member States to crack down on brokers that traffic migrants into forced labor;
 8. *Suggests* Member States to introduce public migrant recruiters in order to lower the cost of migration and provide legal and safe pathways for migrants;
 9. *Calls upon* countries of destination to improve policies that bring about discrimination against migrants between nationals;
 10. *Recommends* countries of destination to implement predetermined employment periods that have migrant workers return to their country of origin temporarily until they can migrant again, and enforce the circulation of this process;
 11. *Requests* countries of destination to accept migrants under prerequisites that are not overly rigid and demanding, to prevent the increase of irregular migration;
 12. *Expresses* its hope for countries of destination to control borders temporarily, but make the border defense more flexible futuristically, when there is further economic development;
 13. *Calls upon* Member States to simplify the regularization processes of migration;
 14. *Encourages* countries of destination to introduce a deposit system which forces employers who hire migrant workers to pay a security deposit to the government and have the deposit returned when predetermined employment periods is finished;

15. *Recommends* countries of origin and destination to establish and use UNMF, United Nations Migration Funds to;

- a) Support them to create new employment in the countries of origin;
- b) Establish and organize the institutions and organizations to provide migrants with the information about the countries of destination;
- c) Support countries of origin financially and technically, so that there are enough job opportunities for migrant workers when they are returning to their home countries temporarily;

16. *Requests* countries of origin and destination to set the expenses each country has to shoulder for the establishment of funds according to Gross Domestic Product;

17. *Invites* countries of origin and destination that want to use migrant workers effectively for development, to gather to create an information unification system, which will futuristically standardize information on migrants and will;

- a) Encourage the smooth movement of migrants from countries of origin to countries of destination that suits the needs of each nation;
- b) Allow the exchange of educators who teach migrants not only the basic language of the countries of destination but also about the culture of the countries of destination;
- c) Greatly decrease the number of irregular migrants.

【受賞校一覧】

最優秀賞

会議 A： Sudan 大使 桐蔭学園中等教育学校 B チーム (神奈川)

会議 B： Russian Federation 大使 灘高等学校 B チーム (兵庫)

優秀賞

会議 A： Argentina 大使 神戸女学院高等学部 (兵庫)

Sweden 大使 渋谷教育学園渋谷高等学校 A チーム (東京)

会議 B： Canada 大使 麻布高等学校 (東京)

Portugal 大使 関西創価高等学校 A チーム (大阪)

ベストポジションペーパー賞

会議 A： Angola 大使 愛知県立旭丘高等学校 A チーム (愛知)

会議 B： Australia 大使 東京女学館高等学校 A チーム (東京)



■ 担当国一覧

【会議A】

担当国	学校・チーム名
Algeria	岐阜県立岐阜高等学校 B チーム
Angola	愛知県立旭丘高等学校 A チーム
Argentina	神戸女学院高等学部
Australia	東大寺学園中学校・高等学校 B チーム
Bahamas	関西学院千里国際高等部 A チーム
Brazil	六甲高等学校
Canada	清教学園高等学校
China	鹿児島県立甲南高校 A チーム
Ecuador	浅野高等学校 A チーム
Fiji	四天王寺高等学校
France	お茶の水女子大学附属高等学校 A チーム
Gambia	岡山龍谷高等学校 A チーム
Germany	昭和女子大学附属昭和高等学校 B チーム
Greece	早稲田大学本庄高等学院 A チーム
Haiti	岐阜県立岐阜高等学校 A チーム
India	大谷中高等学校 B チーム
Indonesia	大谷中高等学校 A チーム
Iran	桐蔭学園中等教育学校 A チーム
Italy	不二聖心女子学院高等学校 A チーム
Japan	名古屋高等学校
Mexico	高水高等学校 A チーム
Mozambique	関西学院千里国際高等部 B チーム
Nepal	京都府立嵯峨野高等学校 B チーム
Nigeria	お茶の水女子大学附属高等学校 B チーム
Philippines	東洋英和女学院高等部 A チーム
Portugal	札幌日本大学高等学校 A チーム
Qatar	早稲田大学高等学院

担当国	学校・チーム名
Romania	高水高等学校 B チーム
Russian Federation	渋谷教育学園渋谷高等学校 B チーム
Singapore	岡山龍谷高等学校 B チーム
South Africa	聖光学院高等学校
Sudan	桐蔭学園中等教育学校 B チーム
Sweden	渋谷教育学園渋谷高等学校 A チーム
Tajikistan	東洋英和女学院高等部 B チーム
Thailand	千葉県立成田国際高等学校
Turkey	大阪星光学院高等学校 B チーム
United Arab Emirates	成蹊高等学校
United Kingdom	愛知県立明和高等学校
United States	桐光学園高等学校 B チーム
Zimbabwe	修道高等学校



【会議 B】

担当国	学校・チーム名
Algeria	松本秀峰中等教育学校
Angola	名古屋国際高等学校 B チーム
Argentina	福山市立福山高等学校
Australia	東京女学館高等学校 A チーム
Bahamas	久留米大学附設高等学校
Brazil	立命館高等学校 B チーム
Canada	麻布高等学校
China	南山高等学校女子部 B チーム
Ecuador	関西創価高等学校 B チーム
Fiji	名古屋国際高等学校 A チーム
France	桐蔭学園高等学校 B チーム
Gambia	桐朋高等学校
Germany	広島県立広島高等学校
Greece	千葉県立千葉高等学校
Haiti	高田高等学校
India	朝日塾中等教育学校 A チーム
Indonesia	山崎学園富士見高等学校 B チーム
Iran	京都外大西高等学校 A チーム
Italy	海陽学園海陽中等教育学校 A チーム
Japan	開成高等学校
Mexico	新潟明訓高等学校 B チーム
Mozambique	山崎学園富士見高等学校 A チーム
Nepal	東京農業大学第一高等学校 B チーム
Nigeria	西大和学園高等学校 B チーム
Philippines	海城高等学校 B チーム
Portugal	関西創価高等学校 A チーム
Qatar	新潟明訓高等学校 A チーム

担当国	学校・チーム名
Romania	市川高等学校
Russian Federation	灘高等学校 B チーム
Singapore	東京都立小石川中等教育学校
South Africa	神戸野田高等学校 B チーム
Sudan	AICJ 高等学校
Sweden	海陽学園海陽中等教育学校 B チーム
Tajikistan	鷗友学園女子高等学校 A チーム
Thailand	渋谷教育学園幕張高等学校 B チーム
Turkey	南山高等学校女子部 A チーム
United Arab Emirates	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 B チーム
United Kingdom	神戸大学附属中等教育学校 A チーム
United States	灘高等学校 A チーム
Zimbabwe	和歌山県立田辺高等学校 A チーム



■ 企画報告

1. 基調講演

講師（敬称略）：

国際移住機関（IOM）駐日事務所 プログラム・マネージャー
清谷 典子 氏

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 執行役員
田瀬 和夫 氏

はじめに清谷典子氏より、「移民問題に関連のある国際移住や持続可能な開発」のテーマのもと、国際移住機関の役割の説明と共に、どのような業務を行っているのかスライドを用いながらご説明いただきました。また移民問題に対して、高校生ができることについてもお話いただき、生徒達は自らがリサーチをした議題を現場で解決されている方を目の前に目を輝かせながら清谷氏のお話に聞き入っておりました。

続いて、田瀬和夫氏より「自分が存在している意味」というテーマでご講演いただきました。国連憲章の前文を用いつつ、「社会が変化していく中大切にすべきものを見極める必要がある」というお話で、生徒だけでなく、引率教員の皆様にまで質問を投げかけながらお話を進めてくださり、大変満足度の高い講演となりました。



清谷 典子 氏



田瀬 和夫 氏

2. 学校関係者向け説明会

高等学校における模擬国連の普及活動の一環として、2日間に渡り計8回の学校関係者向けの説明会を行い、多くの引率教員の方及び見学者である高校生にご参加いただきました。

< 11月14日(土) >

13:00~13:30 OBOG 説明会

14:00~14:30 OBOG 説明会

15:00~15:20 教職員説明会(会議A)

15:30~15:50 教職員説明会(会議B)

< 11月15日(日) >

10:45~11:15 OBOG 説明会

13:20~13:50 OBOG 説明会

14:10~14:30 教職員説明会(会議A)

14:40~15:00 教職員説明会(会議B)

【OBOG 説明会】

過去の全日本大会で優秀な成績を収め、NYでの国際大会に参加した派遣団のOBOGは、今年で100名を超えました。海外大学に留学する人、社会人として様々なフィールドで活躍する人など、多様性に富んだ人材を輩出しています。

大会期間中、OBOGによる現在の活動を報告する企画を計4回開催し、各地で活躍する第1期から第8期の派遣生の現在の姿を追ったビデオを放映した他、過去の全日本大会参加者、今年度の国際大会参加者である第9期派遣生及び1期から4期の派遣生OBOGが参加し、大会報告や活動紹介、座談会形式による交流会を行いました。

多様な分野で活躍する人材を育てる模擬国連の魅力を経験者自身が発信することで、模擬国連の面白さや奥深さに気付かされたとの高校生の声や、模擬国連の意義が明確になったとの教職員の方の声を頂きました。

【教職員説明会】

OBOGと研究が共同で、模擬国連のルール、進行中の会議の報告を各会議について2回ずつ開催致しました。模擬国連のルール解説や会議の経過報告に加え、教員方同士の交流、情報交換の場としてもご活用頂きました。

特に、会議の経過報告では、非着席討議中の議場の様子や、各文書の概要と今後の動きなど、実際に議場を見ていた議スタッフにより詳細な経過をお伝えしました。また、質疑応答の時間では、議場で実際に起こったケースや想定されたケースとルールを照らし合わせた質問を多く頂き、より充実した企画となりました。



■ 参加者の声

【会議について】

—議題、会議設定についてはどうでしたか？

- とても時事情勢に合った議題で、興味をもって参加することが出来ました。
- どの国も参加できる論点設定でとても興味深かったです。将来も考えていかななくてはならない問題なので移民問題を議題にさせていただけてよかったです。
- 日本で暮らしているとあまり直面しない議題である「移民問題」について学ぶことができ、とても良い機会になった。
- 今回の議題は大きな軸が見えにくい分、リサーチをすごく深くやる必要があってやりがいがあった。
- 少し抽象的な点も多く、また資料探しも難しい議題であると感じましたが、今の世界を考える上で欠かせない要素であり、その分野における知識を得ることができ、本当に良かったです。

—本大会に参加された理由を教えてください

- 先輩からの話を聞いて、自分もやってみたいと思いました。
- 自分の教養を深め、殻を破りたかった。
- 国際問題を積極的に考えてみたいため、また自分の事として捉えるということが大切だと考えているため参加させていただきました。
- 人前で意見を言えるようになりたかったから。
- 姉が参加したときのお話を聞き、自分も高校生の間に1つでも大きなことにチャレンジしたいと思いました。

—大会を終えてどうですか？

- チームとしてすごく絆を固めることが出来ました。チーム全ての国の意見を反映させて1つずつ具体的にしていくことが出来て、あのチームで出来たことをとても嬉しく思います。
- 想定外の事態が何度もあり大変でしたが、そういう面も含めて楽しむことが出来ました。
- 色々なすごい人がいるなって実感できました。本当に良い経験になりました。
- チームとしての連携があまり上手くいかなかったので、この経験を来年に活かしたいです。
- 日本の広さを感じた。(自分の学校にはいない人達が多かった。)

—大会全般について

- 時間内に自分たちの国益、また国際的な利益を追求して、文書を作成することのむずかしさを感じました。この大会に限ることではなく、自分の主張についてのポイントを要約していくことが、普段の話し合いなどでも重要になってくると思いました。
- 準備から本番まで皆が本気で圧倒されました。すごく良い経験になりました。
- 今回はリーダー格の国に流されがちになってしまいました。これだけは絶対に譲れない！という政策が甘かったので、そこが最大の反省点だと思います。この2日間に膨大な情報が入ってきたけれど、そこは情報処理能力が問われるところなので、やはり日頃から問題意識と好奇心を持つことが大事だと改めて思いました。

-
- 参加させていただく事が決まり、とても嬉しかった反面、全国大会という大きな舞台に立つことへの不安も大きかったのですが、実際に参加させていただいて思った以上に会議の流れについていくことが出来たし、楽しめました。この大会を通して、勝ち負けではなく、自国の、また他国のすべての人の幸せや平和を考え、あらゆる人の立場に立つことの大切さを学びました。ありがとうございました。
 - この経験は今後の人生に大きく影響すると思います。新たな自分を見つけられた気がします。ありがとうございました。
 - とても楽しかったと同時に大きく成長できました。本大会への参加のすべてが私の糧となりました。
 - 以前と比べれば自分の意見を積極的に話せるようになった。人前で話すことに対するためらいや抵抗が小さくなったように思う。
 - 参加者のみなさんは皆、積極的に主張が論理的ではっきりしていたことに驚きました。全国のような学校の高校生に出会うことができとても刺激になりました。
 - 私を含め、皆が優位に立つこと、勝つことばかりを考えていたのではないかと思います。そうではなくて、いかに良いDRをつくるか、どうやって協力できるかを考えることで、より良い会議になるのではないかと思います。

【説明会について】

—高校生より

- 大会参加者による生の声を聞いて、実際に取り組む上での参考になった。
- 練習会では圧倒されたが、今回の話を聞いてどう努力すれば良いのかが分かったので、自分のできるアプローチで頑張ろうと思った。
- ただ苦しくて大変なものだと思っていたが、得られるものも多いと分かった。
- 英語だけでなく、思考力・集中力・協調性など人間性に含まれる様々な力が養えることが分かった。
- 自分なりの目的を見つけることができ、非常に良い経験になった。
- 普段から社会情勢に興味を持ち、批判的思考を身につけようと思った。
- OBOGの丁寧な対応のおかげで親近感を覚えた。

—引率教員より

- それぞれの分野で自分なりに模擬国連で学んだことを活かして素敵だと感じた。
- 参加者が多くを学ぶことができると思い、本校の生徒にも積極的に参加させたいが、現状では有志生徒に任せきりで教員のサポートができていないため、話し合いたい。
- 模擬国連をしている生徒のイメージは「いかに相手を論破するか」だったが、「相手を包み込む力」が必要だと分かった。
- ワクワクした生の声を聞いて良かった。
- 「人」の多面的なあり方について学ぶことができた。

■ 支援者・支援団体一覧

本大会の実施にあたり、多くの方々から温かいご支援を賜りました。ここに厚くお礼申し上げますとともに、謹んでご芳名を掲載させていただきます（敬称略）。

【共催】

国際連合大学

【後援】

外務省 文部科学省 公益財団法人日本国際連合協会 国際連合広報センター

【協賛】

株式会社内田洋行
株式会社エヌエフ回路設計ブロック
学校法人 河合塾
キックマン株式会社
株式会社公文教育研究会
TOEFL Junior® (GC&T)
株式会社講談社
株式会社ジェイティービー
学校法人 駿河台学園
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
ちきゅうくらぶ
学校法人 高宮学園 代々木ゼミナール

一般財団法人 凸版印刷三幸会
トヨタ自動車株式会社
株式会社ナガセ
株式会社日能研
株式会社ニチレイ
海外トップ大進学塾 Route H
(ベネッセコーポレーション)
株式会社みずほ銀行
株式会社三井住友銀行
三菱商事株式会社
株式会社三菱東京 UFJ 銀行

(五十音順)

【協力】

株式会社日本経済新聞社
日本航空株式会社
株式会社読売新聞グループ本社
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
理想科学工業株式会社

(五十音順)



理想科学工業株式会社様より貸し出し協力いただいた「ORPHIS EX シリーズ」

【開会式挨拶】

星野 俊也

グローバル・クラスルーム日本委員会 評議会議長 / 大阪大学 副学長 /
元国連日本政府代表部 公使参事官

進藤 由美

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU） 教育協力部・人物交流部 部長

【講師】

清谷 典子

国際移住機関（IOM） 駐日事務所 プログラム・マネージャー

田瀬 和夫

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 執行役員

■ ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) からのメッセージ

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) は、グローバル・クラスルーム日本委員会とともに高校模擬国連事業を開催し、日本代表団派遣支援事業を推進しております。本大会にご共催いただいた国際連合大学様をはじめとし、「次世代の国際人 / グローバルな人材を育成する」という趣旨にご理解・ご賛同をいただいた企業様・団体様に改めて深く御礼申し上げます。

第9回を迎えた本大会では、「国際移住と開発」を議題として日本各地から集まった160名の高校生大使が議論を交わしました。自分と異なる事情や利害関係をもった立場から物事を考え、多くの大使の賛同を得られる決議を作り上げていくという経験はもちろんのこと、一緒に会議に参加した日本全国の仲間という財産は、これから世界に出て行く上で大きな助けとなることでしょう。

また、大会に参加するにあたっては、仲間や先生、先輩、家族など周囲の方々のサポートがあったことと思います。スタッフとして大会の運営を支えているのも、模擬国連を共通点にもつ、皆さんの先輩方です。これからは皆さんが、その感謝の気持ちを後輩に伝えていく立場になります。頼もしい先輩になることを期待しています。

今回の大会で得た経験や努力が、参加した皆さんの将来のキャリア創造に役立ち、これからの世界をつくっていくグローバルな人材になるための一助になるなら、ACCUとしてもこれ以上の喜びはありません。

最後になりますが、全日本大会の開催にあたりにご尽力いただいた関係各位の皆様には心より御礼申し上げます。全日本高校模擬国連大会は、来年度には記念すべき第10回を迎えます。ますますの発展をめざし、ACCUとしても精一杯努めてまいります。今後ともご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

ユネスコ・アジア文化センター (ACCU : Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO) について

ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) は、ユネスコ (UNESCO、国際連合教育科学文化機関) から「アジア太平洋地域での文化の相互交流を促進する中核的センター」の設置を打診されたことを契機に、1971年に日本政府と出版界を中心とした民間の協力によって設立されました。設立以来、ユネスコのうたう「平和は、人類の英知と精神的な連帯のうえに築かれるものである」という精神のもとに、日本を拠点にアジア太平洋地区諸国の教育と文化の分野でユネスコや各国関係団体と協力して、人材の育成と相互交流を促進する事業を行なっています。

2011年11月からは「公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター」として、これまで以上に関係機関と連携して地域の現状と社会の要望に即した事業を展開しています。

■ グローバル・クラスルーム日本委員会（2015年12月現在）

（敬称略、順不同）

【アドバイザー・ボード】

明石 康
（元国連事務次長 / 公益財団法人国際文化会館理事長）

【評議会】

星野 俊也（議長）
（日本模擬国連創設者・OB/ 大阪大学副学長 /
元国連日本政府代表部公使参事官）

中満 泉
（日本模擬国連 OG/ 国連事務次長補及び
国連開発計画総裁補兼危機対応局局长）

紀谷 昌彦
（日本模擬国連 OB/ 駐南スーダン大使）

柿岡 俊一
（埼玉県立浦和高等学校教諭）

竹林 和彦
（早稲田実業学校教諭）

米山 宏
（公文学園 SGH 担当教諭）

高松 彩乃
（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
模擬国連推進部）

青柳 沙耶
（東京外国語大学言語文化学部 3年 /
2015年度理事長）

大内 朋哉
（東京大学法学部第二類公法コース 3年 /
2015年度研究主任）

光本 愛理
（2012年国際大会派遣生 /
慶應義塾大学法学部法律学科 3年）

西田 裕信
（2013年度国際大会派遣生 /
東京大学前期教養学部理科一類 2年）

安田 侑加
（2014年国際大会派遣生 / 聖心女子大学 1年）

【理事会】

青柳 沙耶（理事長）
（東京外国語大学言語文化学部 3年）

大内 朋哉（研究主任）
（東京大学法学部第二類公法コース 3年）

馬欠場 直人（理事）
（慶應義塾大学経済学部 2年）

神保 真宏（研究）
（東京大学教養学部 2年）

齋藤 優香子（理事）
（慶應義塾大学法学部 2年）

立花 裕太郎（2014年度理事長）
（慶應義塾大学法学部 4年）

松野 雅人（2014年度研究）
（東京大学教養学部 4年）

逢坂 瞳（2014年度副理事）
（聖心女子大学歴史社会学科国際交流専攻 4年）

■ おわりに

第9回全日本高校模擬国連大会の成功をグローバル・クラスルーム日本委員会評議会を代表し、心からお慶び申し上げます。優秀賞及び各賞を獲得した各位、各校におかれてはおめでとうございます。そして、準備を重ね今大会に全力で取り組んだすべての参加高校生の努力に大きな拍手を送りたいと思います。みなさん、本当にお疲れ様でした。

今大会の議題は「国際移住と開発」という重要なテーマを取り上げました。各加盟国にはそれぞれの立場や思惑があり、合意形成をすることは決して容易ではないのですが、参加高校生の皆さんはそれらの問題に正面から取り組んでくれました。各国の利害がぶつかりあう国際政治を再現したかのような現実的な場面もあれば、高校生らしい独創的で豊かな発想からの主張がなされる場面もありました。

模擬国連では、各参加者が当事者意識を持てば持つほど、問題解決に向けたジレンマや複雑さを感じるかもしれません。ですが、外交とは国家間の深い溝でも乗り越え、複雑に絡み合った各国の利害を調整していく可能性を持った営みでもあります。参加高校生の皆さんが自国の利害をきちんと把握しながらも、複数の決議案や修正案を交渉で一つにまとめていく姿は、外交のそのような可能性を体現している姿であるように思われました。

米国国連協会からの厚意とメリルリンチ社の支援を受けてスタートしたグローバル・クラスルーム日本委員会の活動は、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターを共同主催という形で迎え、より一層の充実を図っております。大学生の間では広く定着してきている模擬国連活動を高校生の皆さんにも紹介し、高校生の段階から国際的なセンスや国連が取り組む様々なグローバルな課題への問題意識を磨いてもらうことを期待し、今後も全日本大会の実施や国際大会への日本代表団の派遣事業などを通じ、多くの高校生の皆さんに模擬国連の醍醐味を感じてもらえるよう、評議会としてもサポートをしてまいりたいと思いますので、がんばってください。

毎回の全国大会は大学生による運営があっはじめて可能となるものですが、青柳理事長以下スタッフは今回も大活躍で、事業をここまでハイレベルに高めてくださいました。改めて厚く御礼を申し上げます。そして、本事業への支援をお続けくださっている共催・後援・協賛・協力の諸団体には感謝の言葉もございません。私たちとしては、多くの皆様のご支援とご期待を励みとし、グローバル・クラスルーム事業の更なる発展に一層の努力をしていく所存です。どうぞ今後ともご指導・ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

グローバル・クラスルーム日本委員会
評議会 議長
星野 俊也

■ 関連リンク

グローバル・クラスルーム日本委員会 / Japan Committee for Global Classrooms	http://www.jcgc.accu.or.jp
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	http://www.accu.or.jp
米国国連協会 / United Nations Association of the United States of America	http://www.unausa.org/
全国英語教育研究団体連合会 / The National Federation of the Prefectural english Teacher's Organizations	http://www.zen-ei-ren.com/
外務省 いっしょに国連 / "Together for the UN" Outreach Campaign	http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/together-un/
【お問い合わせ】 グローバル・クラスルーム日本委員会	gc@jmun.org



編集・発行 グローバル・クラスルーム日本委員会
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

発行年月日：平成 28 年 2 月